

子どもの発達傾向が参照可能な発達相談ブログシステムの構築

宮村幸祐

1 はじめに

近年、保育所や幼稚園(以下、「園」と呼称する)における「気になる子ども」が増加傾向にある。このような子どもの保育には、医学や発達心理学の知識が必要となってくるが、一般の保育者はそのような知識を有していないことが多い。そのため、国の政策として、特別支援や心理学の専門知識を持つ相談員(以下、「保育カウンセラー」と呼称する)が定期的に保育園を巡回し、保育者の「気になる子ども」の保育に対するカンファレンスを行う「巡回相談」制度が導入された。

情報システム学研究室では、この巡回相談を支援するための子ども発達相談ブログシステム¹⁾が提案されてきた。従来のシステムは、巡回相談の支援に対して有効ではあるものの、カンファレンスの対象となっている子どもの発達の傾向が分からず、保育カウンセラーはカンファレンスに対して、十分な回答ができていないと難しい。そこで本研究では、保育カウンセラーがより深いアドバイスができるように、子どもの発達傾向が参照可能な子ども発達相談ブログシステムを提案する。

2 研究背景

2.1 巡回相談

2.1.1 巡回相談とは

巡回相談とは、医学や発達心理学の専門的な知識を持つ保育カウンセラーが定期的に園を訪問し、「気になる子ども」を観察、そして保育者とカンファレンスを行い、保育者にその園児への保育についてアドバイスを行う制度のことである。保育カウンセラーは巡回相談時にアドバイスを行うのみで、その後の保育については保育者に委ねられる。

2.1.2 巡回相談の問題点

巡回相談が抱える問題として以下の点があげられる。

- 財政的な問題から、保育カウンセラーは必要数確保されておらず、頻繁に一つの園を訪問することは困難である。そのため、「気になる子ども」に対しての継続的なカンファレンスは不可能である。また、カンファレンスの時間も限られてくるため、保育者に十分なアドバイスができない。
- カンファレンスの内容は今後の保育において重要であるものの、結果を記録として残していないことが多い。また、例え記録を作成しても、その後有効に活用されないことが多い。

このような点から、従来の巡回相談の形式では、十分なカンファレンスが行われていないのが現状である。

2.2 子ども発達相談ブログシステム

2.2.1 子ども発達相談ブログシステムとは

2.1.2 で述べたような巡回相談の問題点を解決するため、情報システム学研究室では以前より、子ども発達相談ブログが提案されてきた。子ども発達相談ブログシステムは、従来のブログを参考にし、Webサーバ上のシステムでカンファレンスを継続するというシステムである。このシステムを通して行われる発達相談の手順を以下に示す。

1. 保育カウンセラーが園に訪問し、相談の対象となる子どもの様子を見て、カンファレンスを行う。
2. 保育者はカンファレンス内容をシステム上で記録し、サーバ上にアップロードする。
3. システムにアップロードされたカンファレンスの記録は、園長、保育者、保育カウンセラーが閲覧し、必要に応じてコメントを記入する。

保育者は次回の巡回相談日までこのシステムを介して、保育カウンセラーと相談を行いながら保育を進めることができる。また、システム上にアップロードされたカンファレンスがそのまま記録として残り、いつでもどこからでも閲覧が可能になる。

2.2.2 子ども発達相談ブログシステムの課題

子ども発達相談ブログシステムは巡回相談に有効である。しかし、保育カウンセラーはカンファレンスの対象となる園児について、そこまで深い理解があるとは限らず、そのためカンファレンスに対して十分な回答ができていないと難しい。その園児が今までどのように育ってきたのか、発達の傾向にどのような特徴があるのか、といった園児の発達傾向を保育カウンセラーが知ることができれば、より内容の濃いカンファレンスが可能になる。そこで、従来のシステムには備えられていなかった「園児の発達傾向の参照」という機能を加えた、新しい子ども発達相談ブログシステムを構築した。

3 提案システム

3.1 提案システムの概要

本稿で提案するシステムが持つ主な機能は以下の通りである。

- 相談記録のアップロード
- 相談記録へのコメント追加
- 相談記録のPDF化
- 園児・クラスの管理
- 園児の発達傾向の参照

本稿では従来のシステムが備えていなかった「園児の発達傾向の参照」に関してのみ述べる。

3.2 園児の発達傾向の参照

「園児の発達傾向の参照」の機能を実装するため、本システムは、同じく情報システム学研究室で提案された発達記録支援システム²⁾の一部を Web サービスとして利用している。発達記録支援システムは、Web サーバ上で園児の発達観察項目の評価^{*1}をつけ、システムに蓄積する。本システムは SOAP プロトコルを利用して、その蓄積された評価のデータを取得し、それをグラフとして可視化する。システムの概要を Fig. 1 に示す。

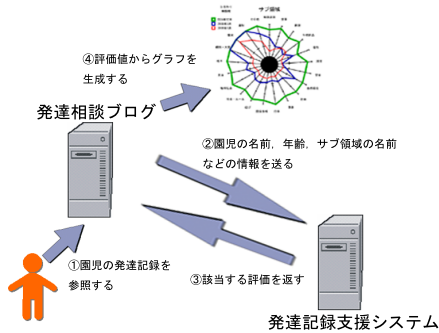


Fig.1 システムの概要

本システムではサブ領域^{*2}全体の傾向を見ることができるレーダーチャートと、各サブ領域の発達観察項目ごとの傾向を見ることができる折れ線グラフを出力できる。

3.2.1 サブ領域全体の発達傾向

各サブ領域に属している発達観察項目の平均の数値をレーダーチャートとして出力する。このレーダーチャートは最大で3ヶ月分の記録を同時に表示することができる。これにより、カンファレンスの対象となっている園児の発達段階と成長の様子を可視化する。サブ領域全体のレーダーチャートの例を Fig. 2 に示す。

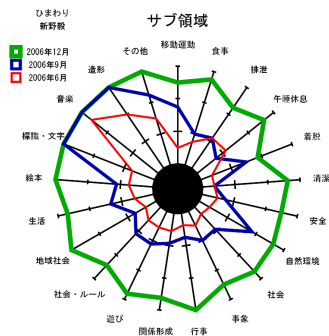


Fig.2 サブ領域全体の発達傾向

*1 評価は2歳児以上に関しては「4」から「0」の5段階、2歳児未満に関しては「2」から「0」の3段階でつけられている

*2 全392個の発達観察項目を「健康」・「人間関係」・「環境」・「言葉」・「表現」の5領域に分類し、それをさらに22種類に細分化したものの

従来のカンファレンスでは、対象の園児の一部分の傾向に関してのみ注視されることが多かった。しかし、Fig. 2 のレーダーチャートを参照することで園児の全体的な発達傾向を知ることが可能になり、より多様な視点から保育カウンセラーは保育のアドバイスを行うことができる。

3.2.2 サブ領域の項目ごとの発達傾向

3.2.1 で述べたレーダーチャートでは、各サブ領域に属している発達観察項目の平均値を出力しているため、各発達観察項目の詳細な変化を知ることができない。そこで、あるサブ領域の各発達観察項目の月ごとの評価の変化を折れ線グラフとして出力できるようにした。Fig. 3 に例を示す。

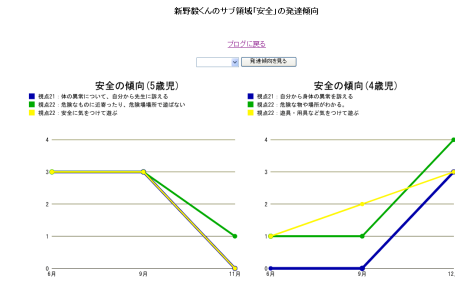


Fig.3 あるサブ領域の項目ごとの発達傾向

Fig. 3 のグラフを参照することで、カンファレンスの対象となっている園児のより詳細な発達傾向を知ることができ、より深い内容のカンファレンスが可能になる。発達観察項目は園児の年齢によって内容が異なるため、グラフは年齢ごとに出力するようにした。

4 まとめ

本稿では、子どもの発達傾向が参照できる発達相談ブログを構築した。本システムにより、巡回相談において保育カウンセラーが「気になる子ども」に関するカンファレンスを容易にできるようになる。今後の展望として、まず実際に巡回相談を行っている保育カウンセラーに本システムに関してのヒアリングを行い、本システムが巡回相談に関して有効であるかどうかを検討したい。その上で社会実験を行い、社会的有効性があるかどうかを調査したい。

参考文献

- 1) 白井由希子, 糠野亜紀, 新谷公朗, 井上明, 芳賀博英, 金田重郎.
「子ども発達相談ブログ」システムの提案と評価, 情報処理学会, 情報システムと社会環境研究会, 第101回研究会, 2007
- 2) 仁木賢治, 糠野亜紀, 新谷公朗, 金田重郎, 芳賀博英
多様な子どもの発達段階に対応した発達記録支援システムの構築, 教育システム情報学会, 第6回研究会, 2007